

総合的な学習の時間学習指導案

日時：平成25年11月19日

展開学級：6年1組

授業者：江原 裕史

1. 単元名：考えよう 行動しよう これからのいなげの浜のために

2. 単元設定の理由

本校は昭和になってから進められた埋立て地に建っている。かつてこの地域には白砂青松、遠浅の海が広がり、海苔の養殖や潮干狩り、また海水浴などで賑わっていた。また、海水が引いたあとに現れる良質な砂浜は飛行場としても利用され、日本の民間航空の発展にも貢献したという歴史をもつ。その名残は“稲毛海岸～丁目”などと地名に見られ、数km行けば日本初の人工海浜であり、千葉市で唯一の海水浴場でもある「いなげの浜」に行き着くというほど、海と所縁のある地域である。

しかし埋め立てから50年以上が経過した現在では、児童の海に対するなじみは薄い。都会の海、工場に囲まれた人工の海という先入観や、児童自身のこれまでの浜での経験から、いなげの浜に対する児童の印象は、「ごみが多く汚い」「水が濁っている」といったものが多く、とても地元の海に愛着をもっているとは言えない現状がある。(資料1)

一方、児童は夏に農山村留学に行き、南房総の海でたくさんの活動を経験した。釣りや磯遊びのほか、漁船に乗って沖にある養殖場まで行き、魚の餌やりを体験したり、民宿では海女さんたちの話を聞いたりした。海とのつながりを大切にしている人々に触れながら、自然に恵まれた豊かな海があることのありがたさ、素晴らしさを感じてくることができた。

こうした経験を生かし、二つの海を比べながら、自然との関わり方を考える学習を行いたい。人の手をできる限り加えず自然をありのままの状態に保つこと、それも環境を守るための一つの方法であるが、一方で現状を捉え、積極的に行動を起こすことも環境を守るためにすべきことである。稲毛海浜公園いなげの浜は、都心への住宅提供の為に失った海岸を再び取り戻そうとする動きによって実現されたものである。自然のままの海とは異なり沖合に造られた海岸は砂の流失も少なく、定期的に砂や砂利を投入して維持している。こうした人工海浜としての性質をもついなげの浜には、自然のままの海にはない、人々の願いや思いがあり、自然への関わり方があるだろう。こうした点に学び、この地域を故郷としてもつ児童が、地元の海に対してどんな海であってほしいかという願いがもてるようにしたい。南房総の海と地元である稲毛の海という複眼的な視点でもって課題を捉え、地元の海のために自分たちは何ができるのかを考えて行動する。この学習を通して、地元・いなげの浜への理解と愛着を深めるとともに、自然を大切に、地球環境に配慮しながら、自ら積極的に行動しようとする態度を育てていきたいと考える。

3. 児童の実態について(男子6名 女子11名 計17名)

児童はこれまでに、3年生で地域、4年生で福祉、5年生で食を主なテーマとして学習してきた。実体験を通して学んだり、体験で気になったことをさらに調べたりしながらそれぞれのテーマについて理解を深め、学んだことを人にわかりやすく伝えるためには、何をどのようにして表したらよいか、表現する力を磨いてきた。また、そうした活動を通して、やるべきことに集中して取り組む力や、本やインターネットから知りたい情報を集める力、また友達のよさを認める態度なども身

に付いてきている。

しかし与えられた課題のなかでは力を発揮する一方で、身近な疑問から課題を設定し自ら計画を立てて学習を進めていくような力や、学んだことを自分の生き方や生活に活かしていこうとする態度については、担任から見ても、また児童の自己評価からも、物足りなさが感じられる。(資料2)

こうした実態を踏まえ、本単元では、身近な疑問から解決したい課題を設定し、その解決に向けて必要なことを児童自身で計画し実行していくこと、そしてそこで学んだことから児童の考え方や行動が変わり、生き方や生活に活かされていくことをねらい、単元を構成した。

稲毛海岸という海と所縁のある土地に暮らしながらも、実際には地元の海であるいなげの浜に対して親しみや愛着をもてていないという生活面の実態。そこに、農山村留学で経験してきた南房総の海という視点を、児童の思考に沿った自然な流れのなかで加えることで、児童が、これまでの地元の海に対する自分の思いを見つめ直すきっかけとしたい。新たな視点によってこれまでの思いを揺さぶることによって疑問と共に学ぶ必要感が生まれ、児童自身が主体的に課題解決に取り組む学習になるのではないかと考える。

4. 単元の目標

○いなげの浜の水質検査や生き物の調査など、稲毛の海の現状について調べる活動を通して、人々の生活が環境に与えてしまう影響と、人の手を加えることによってできることについて理解し、これからのいなげの浜のために何ができるかを考え、自分にできることを実践することができる。

○自ら課題を設定し、自分の課題解決へ向けて、何からどのように取り組んでいくのか、次は何を考えるのか、計画を立てながら学習を進めることができる。

5. 評価規準

主体的・探究的 取り組み	課題設定の能力	学び方・考え方	課題解決の能力と 協同性	自己の生き方
<ul style="list-style-type: none"> ・ どんないなげの浜にしたいかという思いをもち、これからのいなげの浜のためにできることを進んで考えようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の知識や経験を踏まえて、疑問に思ったことや興味関心、自分の願いや思いから、適切な課題を設定することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題解決へ向けて何をどのような方法で取り組んでいくか、自分で次の学習の計画を立てることができる。 ・ 集めた情報を比べたり関連付けたりして自分の考えをもつことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な方法を用いて必要な情報を集めたり、選択したりすることができる。 ・ 調べたことや考えたことをわかりやすく表現することができる。 ・ 友達とやるべきことを分担したり、意見を話し合ったりしながら課題を解決することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活が環境に与える影響や人々の努力を知り、いなげの浜のために自分にできることを実行しようとしている。

6. 指導計画 (35時間)

	学習過程	時数	学習内容と活動	指導上の留意点
第一 サイ クル	課外		○農山村留学(7/7～10) 南房総大房岬少年自然の家と白浜地区の民宿で3泊4日過ごす。 ・釣り ・磯遊び ・漁船乗船体験 ・貝殻工作 ・海辺で体操 ・海女さんのお話 などの体験をする	・海を舞台にした活動を経験するなかで、目の前の海を大切に、自然と共に生きる人々の姿勢を感じられるようにする。
			○農山村留学を振り返る(9月実施) ・南房総農山村留学を来年のために5年生に伝えなければいけない。伝えるべきことは何だろう【課題設定】 ・それぞれの活動や南房総の魅力はどんなところだったか【情報収集】 ・友達からのアンケートの集計【整理・分析】 ・5年生に向けて発表しよう【まとめ・表現】	・5年生へ向けた発表資料をつくりながら、南房総のよかったところ、楽しかったところに目を向けられるようにする。 ・総合的な学習の時間における探究的な学習過程を意識して取り組む。
	課題設定	1	○農山村留学や5年生への発表を振り返り、今後取り組みたい学習について話し合う。 ・南房総の魅力について考えてきた。 ・地元である稲毛の海「いなげの浜」の魅力は何だろう。 ・今年の夏に海に行った人 いなげの浜に行った人 ・いなげの浜について思っていること (教師の投げかけ) →実際にいなげの浜に行き、楽しく遊べるかどうか確かめてみよう	・南房総の美しさ、楽しさを振り返りながら、地元・いなげの浜に対してはどのように思っているのか、意見を出し合い、いなげの浜に関心をもてるようにする。 ・いなげの浜で遊んだ経験を話し合い、海でやりたいことを話し合う。
		2 3	○実際にいなげの浜に出かけ、砂浜や海での活動をもとに、いなげの浜がどのようなところなのかを感じ取る。 (第一の体験) ・砂遊び ・ビーチバレー ・ビーチフラッグなど	・安全面に配慮したなかで、海の水や砂浜を使った活動を行い、いなげの浜の環境に触れ合えるようにする。

課題設定	4	<p>○海での活動を振り返り、感じたこと、気が付いたことを話し合う。</p> <p>○行く前</p> <table border="1" data-bbox="549 300 791 474"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・水が汚い ・生き物が少ない ・ごみが多い </td> <td> <p>○行った後</p> <table border="1" data-bbox="810 300 1082 510"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・思ったより水は透き通っていた ・砂浜にごみは少なかった </td> </tr> </table> </td> </tr> </table> <p>(児童の感想)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂浜にごみがないと、気持ちがよい。 ・ごみがなければ砂浜で思い切り遊べる。 ・生き物が少ないから安心して水に入ることができ、楽しく遊べた。 ・いなげの浜は人工海浜だから、生き物が少ないのだと思う。 <p>(児童の願い)</p> <p>→ “稲毛の海の楽しさ、よさを知り、多くの人に伝えたい。できることをして、自分たちの力でもっときれいな海にしたい。”</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水が汚い ・生き物が少ない ・ごみが多い 	<p>○行った後</p> <table border="1" data-bbox="810 300 1082 510"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・思ったより水は透き通っていた ・砂浜にごみは少なかった </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ・思ったより水は透き通っていた ・砂浜にごみは少なかった 	<ul style="list-style-type: none"> ・海の水について、浜辺について、生き物について、いなげの浜の特徴を捉えさせる。 ・活動前と活動後の感じ方の違いはなぜ生まれたのかについて考え、自分たちが感じた実際の様子とイメージのギャップから、これからの学習でどんなことを目指して取り組みたいか考えられるようにする。 												
	<ul style="list-style-type: none"> ・水が汚い ・生き物が少ない ・ごみが多い 	<p>○行った後</p> <table border="1" data-bbox="810 300 1082 510"> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・思ったより水は透き通っていた ・砂浜にごみは少なかった </td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ・思ったより水は透き通っていた ・砂浜にごみは少なかった 															
<ul style="list-style-type: none"> ・思ったより水は透き通っていた ・砂浜にごみは少なかった 																		
5	<p>○いなげの浜と南房総の海の様子を比べ、それぞれの特徴や違いを考える。</p> <table border="1" data-bbox="555 1173 1075 1509"> <thead> <tr> <th></th> <th>生き物</th> <th>水質</th> <th>施設</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>いなげ</td> <td>貝殻</td> <td>波穏やか 水はきれい?</td> <td>砂浜 ビーチ バレー</td> </tr> <tr> <td>南房総</td> <td>魚 カニ タコ等</td> <td>波高い 透明</td> <td>岩場が多い 漁場有</td> </tr> </tbody> </table> <p>○疑問に思ったこと、わからないこと、調べてみたいことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いなげの浜の水は、本当はきれいなのか、それとも汚れているのか。(水質) ・プールや公園が併設されていて利用しやすいのではないか。利用者はどんな目的で来るのだろうか。(利用者・施設) ・砂浜に隠れているだけで、本当はいなげの浜にも生き物はたくさんいるのではないか。(生き物) 		生き物	水質	施設	いなげ	貝殻	波穏やか 水はきれい?	砂浜 ビーチ バレー	南房総	魚 カニ タコ等	波高い 透明	岩場が多い 漁場有	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や映像を提示し、それぞれの海の様子を思い出せるようにする。 ・二つの海を比較しながら、それぞれの海がもつ特徴を掴めるようにする。 ・二つの海を比べて、自分ならどちらの海に行きたいと思うかを考えさせた後で、二つの海の年間の海水浴利用者数を提示する。 <table border="1" data-bbox="1104 1774 1433 2069"> <tr> <td>・いなげの浜</td> <td>17万人</td> </tr> <tr> <td>・南房総</td> <td>1万人</td> </tr> </table> <p>【千葉県環境生活部水質保全課平成25年度千葉県海水浴場水質調査より】</p>	・いなげの浜	17万人	・南房総	1万人
	生き物	水質	施設															
いなげ	貝殻	波穏やか 水はきれい?	砂浜 ビーチ バレー															
南房総	魚 カニ タコ等	波高い 透明	岩場が多い 漁場有															
・いなげの浜	17万人																	
・南房総	1万人																	

課題設定		(仮の課題設定) →知っているつもりになっていた、いなげの浜の本当の魅力を探ろう。	・なぜ多くの利用者が集まるのかという疑問から、調べてみたいこと、自分の課題を設定する。															
	情報収集	6 ○関心のあること、調べたいこと、それぞれの課題に応じて調べる。 【生き物】 ・釣りをしている人を見たことがある。いなげの浜には、どんな生き物がいるのだろうか 【施設】 ・利用者は、どこから、どんな目的で来ているのか。どんなイベントが開催されているのか。 【水質】 ・いなげの浜の水はきれいなのだろうか、汚れているのだろうか。 【遊び】 ・ヨットやカイトサーフィンをしている人を見たことがある。いなげの浜ではどんなマリンスポーツができるのだろうか。	・本やインターネットを使って知りたいことを調べる。															
		7 ○いなげの浜の水質調査をする。 8 (第二体験) (10/28) ・いなげの浜の水は汚れているのか (環境学習アドバイザーに協力依頼)	・文字情報を見つけるだけでなく、実験を通して学ぶことのよさに気付けるようにする。															
(課題の再設定)	9 ○いなげの浜の水質のことを知り、改めていなげの浜をどんな海にしたいか考え、グループづくりをする。 ・どんな海にしたいか考える。 ・海への願いごとにグループをつくる。 ・それぞれの課題達成に向けて、調べなければならないことを考える。 【これからのいなげの浜への願いとそのため調べること】	・これまで調べたことは、何のために調べたことなのかという問いから、どんな海にしたいのか、この学習を何に繋げたいのか話し合う。																
		<table border="1"> <tr> <td>遊べる海</td> <td>きれいな海</td> <td>生物豊かな海</td> </tr> <tr> <td>利用目的</td> <td>生活排水量</td> <td>生息する生物</td> </tr> <tr> <td>年齢層</td> <td>ごみの量</td> <td>漁獲量の変化</td> </tr> <tr> <td>イベント</td> <td>赤潮、青潮</td> <td>必要な環境</td> </tr> <tr> <td>スポーツ</td> <td>高codの物</td> <td></td> </tr> </table>	遊べる海	きれいな海	生物豊かな海	利用目的	生活排水量	生息する生物	年齢層	ごみの量	漁獲量の変化	イベント	赤潮、青潮	必要な環境	スポーツ	高codの物		
遊べる海	きれいな海	生物豊かな海																
利用目的	生活排水量	生息する生物																
年齢層	ごみの量	漁獲量の変化																
イベント	赤潮、青潮	必要な環境																
スポーツ	高codの物																	

情報収集	10	○課題達成に向けて情報を集める	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットで調べられないときは、どんな方法があるか考え、人と繋がって調べるという方法に気付けるようにする。 ・実際にいなげの浜に行き、安全に配慮しながら、どんな生き物がいるか調べたり、指導員の方の思いを聞いたりする。 ・東京湾の水質調査の結果から、いなげの浜にはどんな課題があるのか、どうしたらよいかについてお話を伺う。 ・いなげの浜をつくる時の人々の思いや、これからの稲毛の海に対する願いなどについてお話を伺う。 					
	11	<ul style="list-style-type: none"> ・遊べる海…利用者層、施設、イベント マリンスポーツ ・きれいな海…赤潮、青潮の仕組み ・生物豊かな海…いなげの浜で見られる生物、東京湾の漁獲量 						
	12	○いなげの浜には、どんな生き物がどこ						
	13	にいるのか、生き物に必要な環境について調べる。(第三体験) (11/5) (自然観察指導員に協力依頼)						
	14	○いなげの浜を含めた、東京湾の水質の						
15	これまでの変化や今後について調べる。(第四体験) (11/7) (千葉県環境研究センターに協力依頼)							
16	○いなげの浜の利用者の思いや願い、施設を管理したり、イベントなどを企画	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれが調べたことをカードに書き、表に貼り付けながら整理する。 ・自分たちの考える海にしていくために、どんなことができるのかを考えていく。またその際には、これまで調べてわかったことを根拠にするようにする。 						
17	したりする側の人々の思いについて調べる。(第五体験) (11/8) (美浜公園緑地管理事務所に協力依頼 いなげの浜利用者へのインタビュー)							
18	○これまで調べてきたことを整理して、							
19	それぞれの課題達成に向けて、どんな							
20	ことができるか考える。またその根拠となる事実を提示できるように資料を用意する。 【これからのいなげの浜のためにできること】							
整理・分析		<table border="1"> <tr> <td>遊べる海</td> <td>きれいな海</td> <td>生物豊かな海</td> </tr> <tr> <td>年齢層に合ったイベント、施設整備</td> <td>生活排水量削減への協力 海岸清掃</td> <td>干潟を守る埋め立てをしない ごみをポイ捨てない</td> </tr> </table>	遊べる海	きれいな海	生物豊かな海	年齢層に合ったイベント、施設整備	生活排水量削減への協力 海岸清掃	干潟を守る埋め立てをしない ごみをポイ捨てない
遊べる海	きれいな海	生物豊かな海						
年齢層に合ったイベント、施設整備	生活排水量削減への協力 海岸清掃	干潟を守る埋め立てをしない ごみをポイ捨てない						

	まとめ・表現	2 1	○「いなげの浜のためにできること」として、それぞれの提案は妥当かどうか、必要性や内容の詳細について、パネルディスカッションを通して話し合う。 (本時)	・どんな海にするための提案なのか、それぞれの立場から発言し、全体討論で考えを深められるようにする。
		2 2 2 3 2 4	○「稲浜っ子の日」に向けて発表準備をする。	・聞く人にとってわかりやすい内容となるよう発表方法を工夫する。
		2 5	○学習発表会「稲浜っ子の日」で、地域、保護者へ向けて、現在のいなげの浜の姿と、これからのいなげの浜のために協力してほしいことなどを発表する。 (11/30)	(プレゼンテーション資料、劇、クイズ など)
	課題設定	2 6	○発表会を終えた感想を交流し合う。 ○これからのいなげの浜のために、これまで学んできたことをどのように生かしていくか話し合う。	・発表会を終えられた達成感を感じられるようにするとともに、はじめの課題に立ち返り、自分たちの望む海にするために、これからどんなことができるか話し合う。
第二サイクル	情報収集	2 7 2 8 2 9	○学級全体で取り組むことと、一人ひとりの生活で取り組むことを決め実行する。 (例) 【学級で】 ・いなげの浜の海岸清掃などのボランティアに参加する。 【一人ひとり、家庭で】 ・生活排水の処理の仕方を工夫する。	・座標軸の入ったワークシートを使い、個人や集団で実行できることを考える。 ・学校外の公的な場を借り、学習したことが社会に繋がっていくことを実感できるようにする。 ・一定期間、家庭でも実践してみて後日感想をもちよるようにする。
	整理・分析	3 0	○実践してみてどんな成果があがった、またはあがらなかったのか交流し合う。	・家庭でどんな工夫ができたのか情報を共有するとともに、学ぶことの意義を感じられるようにする。
	まとめ・表現	3 1 3 2 3 3 3 4	○いなげの浜の魅力や現状を伝え、自分たちの提案に協力してもらえるようにアピールするために、いなげの浜のご当地キャラクターを考える。	・いなげの浜に親しみをもてるよう、いなげの浜の特徴を生かしたキャラクターを考える。

		35	<p>○パンフレットを作り、いなげの浜や稲毛記念館に置いてもらう。</p> <p>○これまでの学習を振り返り、いなげの浜に対してどのような考えをもつようになったのか、また、この学習でどんな力が付いたかについて考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や全校アンケートを通じて学級代表のご当地キャラクターを決め、それを生かして、いなげの浜の現状と対策を伝えるパンフレットを作る。 ・自己評価カードをもとに、自分の成長した点に気付けるようにする。
--	--	----	--	---

7. 研究主題との関連

《視点1 人とかかわりながら、自分を見つめ、考える学習》

○学年行事からの繋がり、発展～南房総での出会いを生かし、地域の海を見つめ直す学習過程～

本単元は、夏に実施した農山村留学から繋がり、発展して生まれたものであるという位置付けを特に意識して構成している。それには二つの理由があり、一つは児童が身近な疑問から課題を見付けるということを学べるよう、児童にとってそのとき関心のあることから出発したかったという点である。児童にとって大変充実した活動であった農山村留学を出発点に、少しずつ本単元の学習へとシフトしていくことで、やらされる受身の学習でなく、やるべき必要性を感じた主体的な学習になると考えた。そして二つ目の理由は、南房総の海という比較対象をもちながらいなげの浜について見つめ直させたかったという点である。一つのものだけを見ていてもわからないことが、他と比べて気が付くということ。身近な存在過ぎて薄れてしまった気持ちを他との比較によって揺さぶり、新たな視点で見つめることで、地元の海のよさに改めて気付き、自分の行動を考えていくことに繋がると考えた。

○研究者やボランティア、利用者の方など他者とかかわる学習活動

本単元では、第一サイクルの情報収集にあたる学習過程のなかで、本やインターネットだけでなく、実際に現場を見たり人と会ったりする活動をできる限り取り入れた。これまで自分の思い込みや視点だけで捉えていたいなげの浜だが、その場で活動している研究者やボランティアの方、また利用者がいなげの浜をどう感じているのかを知ることで、これまでの自分のものの見方を広げ、多くの人々の思いが詰まった地元・いなげの浜を誇りとし、自然へのかかわり方を考えることができると思った。

《視点2 子ども自身が、自分の変容に気が付く学習》

○身に付けさせたい力の明記と単位時間ごとの振り返り

総合的な学習の時間を通して、どんな力が身に付いているのかは、児童自身は認識し辛いものである。テストのように数値化されるものでもなく、テーマが多岐に渡りそれに応じて活動も変わって見えてしまうため、積み重ねを実感しにくい。児童にとったアンケート結果でも、教師側が意図している力はあまり意識されず、テーマについての理解や人間関係、コミュニケーション能力などに偏ってしまっている傾向が見られた。(資料3)

そこで、本校の評価の観点に沿って、それぞれがどんな力や態度を指しているのかを明文化し、児童に自己評価をさせた。(資料4)取り組むテーマが様々で、横断的・総合的な学習が取り入れ

られる総合的な学習の時間だからこそ、このように一般化した形で他教科の身に付ける力と区別することは必要だと考える。また、単元前に行ったこのカードと共に、探究の過程ごとに評価の観点を変えた振り返りカード(資料5)を蓄積することで、児童自身が、どこでどんな学習をしたことで、どんな力が付いたのか、自分の変容に気が付くことができると考えた。

8. 本時の展開

(1)本時の目標

- ・これまで調べてきたことをもとに、いなげの浜の魅力や課題、自分にできることについて考えることができる。

(2)展開(21 / 35)

学習活動	○指導上の留意点(◆評価)																
1. 前時までの学習内容を確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの願いをもち、情報を集めたこと。 ・自分たちにできることを考えたこと、 2. 本時の学習について確認する。	○前時までの内容を振り返り、本時でやるべきことについて確認する。																
自分たちの願ういなげの浜にするために何ができるのか、パネルディスカッションで考えを深め合おう。																	
3. 話し合いの方法や進め方について確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・「遊べる海」「きれいな海」「生き物たくさん海」それぞれのグループからパネリストを選出して、自分たちの願いを叶えるためにどんなことができるのか提案し、意見を深め合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;">7.</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">6.</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">5.</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">4.</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">3.</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">2.</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">1.</td> <td style="width: 10%; text-align: center;">パ ネ ル デ ィ ス カ ッ シ ョ ン</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">お わ り の 言 葉</td> <td style="text-align: center;">パ ネ リ ス ト ま と め の 発 言</td> <td style="text-align: center;">フ ロ ア か ら の 質 問 、 意 見</td> <td style="text-align: center;">相 談 タ イ ム</td> <td style="text-align: center;">パ ネ リ ス ト 同 士 の 意 見 交 換</td> <td style="text-align: center;">「 生 き 物 た く さ ん の 海 」 「 き れ い な 海 」 「 遊 べ る 海 」</td> <td style="text-align: center;">は じ め の 言 葉 パ ネ リ ス ト の 提 案</td> <td style="text-align: center;">の 進 め 方</td> </tr> </table> </div>	7.	6.	5.	4.	3.	2.	1.	パ ネ ル デ ィ ス カ ッ シ ョ ン	お わ り の 言 葉	パ ネ リ ス ト ま と め の 発 言	フ ロ ア か ら の 質 問 、 意 見	相 談 タ イ ム	パ ネ リ ス ト 同 士 の 意 見 交 換	「 生 き 物 た く さ ん の 海 」 「 き れ い な 海 」 「 遊 べ る 海 」	は じ め の 言 葉 パ ネ リ ス ト の 提 案	の 進 め 方	○意見が出やすいように、同じグループ同士が近くなるよう机を配置する。 ○フロアが聞き取りや書き取りでなく、内容について考えることに集中できるよう、パネリストの主張内容をまとめた用紙をあらかじめ配布しておく。(資料6) ○フロアからの発言を促すため、考える際の参考となる視点を【質問、共感、意見の極意】として掲示したりワークシートとして活用したりする。(資料7、8) ○フロアとパネリストの一問一答だけにならないよう、考えを深められそうな話題の際には討論を一度止め、全員で考えるように投げかける。 ◆パネルディスカッションに参加しながら、いなげの浜の現在の課題を知ろうとしたり、いなげの浜のためにできること、必要なことを考えたりしている。 ○話し合いによって、どのように考えが深まったかについて振り返る。 ○自分たちの提案を、保護者や地域の方に理解してもらうために、稲浜っ子の日に向けて発表準備を確認する。
7.	6.	5.	4.	3.	2.	1.	パ ネ ル デ ィ ス カ ッ シ ョ ン										
お わ り の 言 葉	パ ネ リ ス ト ま と め の 発 言	フ ロ ア か ら の 質 問 、 意 見	相 談 タ イ ム	パ ネ リ ス ト 同 士 の 意 見 交 換	「 生 き 物 た く さ ん の 海 」 「 き れ い な 海 」 「 遊 べ る 海 」	は じ め の 言 葉 パ ネ リ ス ト の 提 案	の 進 め 方										
3. パネルディスカッションをする。 「いなげの浜のためにできること」																	
4. パネルディスカッションの振り返りをする。																	
5. 今後の学習の進め方について話し合う。																	

